

2012.3.25 聖別会

# IMMANUEL

インマヌエル  
中目黒キリスト教会  
聖別会マンスリー



2012年

デニス・キンロー著「キリストのように生きる」

## ・「罪と向き合おう」

テキスト：

「もし、あなたご自身がいっしょにおいでにならないなら、私たちをここから上らせないでください。私とあなたの民とが、あなたのお心にかなっていることは・・・あなたが私たちといっしょにおいでになって、私とあなたの民が、地上のすべての民と区別されることによる・・・」

(出エジプト 33 : 15 - 16)

はじめの質問：この世に存在する「悪」と、善なる創造者との関係をどう理解すべきか？

答え：それは、被造物が創造者に「背を向ける」(神が人生の中心であり、命の源である、という立場から離れた)ことから始まった。

罪の性質：「神の御顔を慕い求め、神の光の内を歩むべきなのに、この神を拒絶し、自分勝手な道に向かっていく事」(イザヤ 53:6)である。それに反して、信仰者は神と共に歩み、神を人生の中心に置く。

さて、罪は、次の「背反」を含んでいる：

### 1. 光に背を向ける

神はすべての光の源であり(創世記 1:1 - 3) キリストも世の光である(ヨハネ 8:12)。この方から遠ざかれば遠ざかるほど、暗黒は増す。

## 2．真理に背を向ける

キリストは私たちに、如何に生きるべきかを示す真理そのものである(ヨハネ 18:37-38)。真理は動かない。この方を人生の中心に据えるなら、全てが収まる。しかし、この方を失うと、人間関係も、人生計画も全てがばらばらになる。

## 3．神聖さ、尊さへの背反

神はすべて尊いもの、神聖なる者の源である。人間の尊厳は、この神によって造られたことからくる。だから、神に背を向けると生活が不敬虔なものになる。反対に、神を中心に置くと、人間の尊厳が回復される(例：ウイルバーフォース)。

## 4．愛への背き

神の愛とは、自分よりも相手を大切にし、相手の益を願う性質のことである。神を失うと、人は自己中心となる。反対に、神のために全てを捧げ切る時、神の愛が私たちを通して溢れ出る(カウマン氏の例)。

### 最も大切な質問

私たちは日々神に「聴いて」いるだろうか。モーセが神の臨在と同行を求めたように、私達も神の言葉に注意を払い、導いて頂いているだろうか。